＜指導案＞

２　指導案例＜１＞

　　「かんなの刃の調整を行い，こばのかんながけをしよう」（本時４／７時間目）

1. 本時の目標

　　・正しい姿勢でかんながけを行うことができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（技能）

　　・かんなの利用の仕方について工夫することができる。　　　　　　　　　　　　　　　（工夫）

　　・かんなの各名称や刃の調整の仕方を正しく理解することができる。　　　　　　（知識・理解）

1. 準備・資料

・教師：かんな，げんのう，さしがね（ペアに各１個），USB顕微鏡

　　・生徒：教科書

1. 学習過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | 学習活動 | 指導上の留意点　☆評価の観点 |
| つかむ５分 | １　部品をよりきれいに加工するためにはどうすればよいか考える。 | ○生徒にものづくりの経験を振り返らせ，さまざまな意見が出るようにする。 |
| 広げる15分 | ２　USB顕微鏡を使い，こぐち面を観察する。３　グループで意見交流をした後，感想を発表する。 | ○かんな削りをした面と研磨紙で削った面を比較させ，どちらの加工がきれいに仕上げられるかを問う。○最初にグループ内で感想を共有させ，その後に発表するように促す。☆かんなの有用性に気付くことができたか。（授業の様子）【工】 |
| 深める20分 | ４　本時の目標を確認する。かんなの刃の調整を行い，こばのかんながけをしよう。５　かんな削りを学習する。 | ○刃先の出の調整方法，裏金の調整方法，削り方のポイントを確実に理解させる。☆かんなの使い方を理解することができたか。（作業の様子）【知】 |
| 活用する10分 | ６　かんなの刃先の出を調整する。７　こば削りをする。 | ○刃先の出を意識させ，ペアで確認しながら調整させる。○上手に削れない生徒に対して，削り方のポイントを意識して削るように促す。☆かんなを正しく使うことができたか。（作業の様子）【技】 |

1. 評価

　 ・正しいかんながけができたか。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（作業の様子から）

　 ・かんなの有用性に気付くことができたか。　　　　　　　　　　　　　　　　（授業の様子から）

　 ・かんなの調整について理解できたか。　　　　　　　　　　　　　　　　　　（作業の様子から）